



2018年12月10日発行  
 特定非営利活動法人  
 盛岡YMCA  
 〒020-0015  
 盛岡市本町通3-1-1  
 Tel 019-623-1575  
 Fax 019-623-1579  
 www.moriokaymca.org  
 発行人/ 濱塚 有史  
 編集/ 本部事務局

# YMCA News 12



## 「スキーキャンプの思い出」

私は、小学生のころから YMCA が大好きで、YMCA にいる友達が大好きで、スキーも大好きでした。そんな私が、スキーキャンプにはじめて参加したのは、小学5年生のときでした。一人での参加がこわかった私は、友達と参加することにしました。

そこでのスキーキャンプは本当に楽しくて、今でも大切な思い出になっています。スキーでは、自分の実力にあわせて、無理なく、楽しく成長できました。スキー以外にも、同じ部屋の人と協力したり、他の学校の子とも、話したりすることができました。リーダーの皆さんも、やさしく笑顔で教えてくださることによって、きんちょうせず楽しめました。そこで過ごした三日間はあっというまに過ぎていきました。

私は、YMCA のスキーキャンプで大切な思い出を作るとともに、三つの力を身に付けました。一つは、スキーを思う存分に楽しむ力。二つ目は、だれとでも話し、協力する力。三つめは、自分のことは自分で行い、仲間と助け合う力です。また、機会があるのなら「友達といっしょ。」にスキーに行きたいです。



YMCA メンバーOG  
玉澤日咲子

### 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

## スキーキャンプ ～参加メンバーから～

私は去年、スキーキャンプに初めて参加して、今年で2度目の参加です。去年、初参加でどう動いたらいいか分からなくて、すごく不安でした。でも、エンジョイメンバーやリーダー、キャンプ経験者が快く仲間に入れてくれたので安心しました。時間がたつにつれて、メンバーとも仲よくなって変顔大会とかもしました。私は、去年の思い出が心に残りました。今年も、スキーはもちろん、それ以外のことも、なにもかも魅力的なスキーキャンプを楽しみにしています!!



前潟学童 佐々木 眺南 (4年生)



前潟学童 泉澤 莉那 (4年生)

わたしは、ジュニアスキーキャンプに参加します。わたしは、去年もジュニアスキーキャンプに参加して、とても楽しかったので、1年ずっと待っていました。わたしは、去年ジュニアスキーキャンプに参加したけれど、最初のうちは全然すべれなかったけど、しだいにうまくなっていきました。だから、今年もたくさん練習して、うまくなりたいです。

「スキーキャンプ楽しみにしていること」  
Yのリーダーといっしょにスキーをすることです。  
できたらひとりですべります。



向中野学童 松村 悠大(1年生)



本町学童 兼平 亜紀 (3年生)

私は今までに2回エンジョイスキーキャンプに行ったことがあります。お友だちの誕生日をみんなでお祝いしたり、おしゃべりしながらスキーをしたり、パラレルの練習をしたり、お風呂で大騒ぎをしたり、ナイトプログラムでいろんなものを運ぶリレーをしたりしたことが楽しかったです。今年はパラレルが出来るようにたくさん練習したいです。あと、友達をいっぱい遊びたいです。

私はいろいろなウィンタープログラムに行ったことがあります。みんなでスキーをしたことが楽しかったです。  
スキーが上手になれるように頑張りたいです。



本町学童 遠藤 鶴乃 (3年生)



本町学童 角田 桜子 (4年生)

私は2回スキーキャンプに参加しました。初めて参加した時は一人で曲がったり止まったりできるようになりました。お父さん、お母さんもびっくりしていました。これからのキャンプで楽しみなことは、スキー以外にもナイトプログラムで班ごとに劇やクイズ大会などをすることです。そして今年も上達してスキーキャンプから帰ってこれるようにがんばりたいと思います。

## ヤマメを学ぼう

今回はヤマメの採卵体験について報告します。当日は、子ども8人、スタッフ・リーダー12人の計20人の参加。あいにくの雨でしたが、紅葉が色濃く映り絶景でした。子どもたちはお天気なんておかないし！バスの中では私は誰でもしょうクイズでウォーミングアップが完了し、そのままの元気で会場へ向かいました。

水槽のあるゾーンでは、生まれたばかりの赤ちゃんヤマメ、5年経ったヤマメを比べて、子どもたちは「うえ〜！」と叫んだり、身を乗り出してじっくり観察しました。

いよいよヤマメの採卵体験です。約30センチのヤマメを持ち、お腹を絞るように押し、上手に卵を取り出していきます。子どもたちは真剣な顔で「やります！」と自分から体験していきましました。次に、取り出した卵を受精させる作業。スタッフの人に精子を入れてもらいながら、卵の入った器を回していきます。本当は僕も僕も、とやりたい気持ちを抑え、分担して体験することができました。また、ただの体験ではなく、命に関わるのだということもあり、普段とはまた違い、子どもたちも真剣に取り組んでいました。その後は、皆が楽しみにしていたヤマメの塩焼き、熱々のつみれ汁！が待っています。冷え切った体には最高のごちそうでした♪

今回のヤマメの採卵体験は、宮古の自然と、命の神秘について考えるきっかけになりました。

今回は少人数の参加でしたが、その分自由に意見を言い、一つ一つの体験とじっくり向き合い、子どもたち一人ひとりの個性が光っていました。どうか、ヤマメが一粒残らず稚魚になりますように、心から祈るトラックでした♪



岩手大学2年  
齊藤 七彩(トラックリーダー)

## SDGs と YMCA

最近よく耳にするSDGs。今回、日本YMCA同盟元総主事の島田茂さんから、「SDGs と YMCA」をテーマにお話をいただきました。

そもそもSDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」が17個挙げられており、2030年に向けて世界中が同意したものである。

そうした詳しいお話を聞きながら感じたことは、17個の開発目標は、すべてつながっているということだ。17個の目標には、「貧困をなくそう」、「つくる責任、使う責任」、また、「海の豊かさを守ろう」などの目標が掲げられている。一見、関係の無さそうな目標、課題だが、深く深く考えていくと点と点がつながっていく。

YMCAでも、同じことが言える。シニアを対象とした野外活動では、SDGsの3番目、「すべての人に健康と福祉を」。また、11番目の「住み続けられるまちづくりを」がつながってくる。一つの活動の中に、様々な課題や目標が詰まっていることを実感し、YMCAが日常大切にしている、地域の課題と向き合うこと自体が、世界の課題に向き合うことにつながっていくのだと思った。

今、盛岡YMCAにできること、私個人ができることを、どんなに小さくてもゆっくりでも、しっかりと目の前の課題と向き合うことを大事にしていきたいと思った。

これからももっと、ずっと、考え続けていきたい。



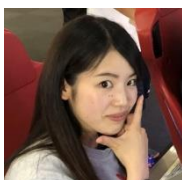
盛岡YMCAディレクター  
武田 悠

## 前潟お泊り会

ぶらいむ・たいむ前潟校では11月17日~18日の二日間、「お泊り会」を行いました。今年は、総勢32人の子どもが参加し、その中には前潟校を卒業した中学生の姿もありました。常連さんが多くいる中、私にとっては初めてのお泊り会だったので、緊張と不安で一杯。1年生の気持ちがよく分かりました。

初日は公園で日が暮れるまで遊び、夕食では出来たての富士宮焼きそばを頬張り、ナイトプログラムでは4・5年生がお泊り会に向け準備したプログラムをして、11月という季節にも関わらず汗だくになるまで遊び、その汗をお風呂で流して気づけば消灯時間！二日目も朝から子ども達はパワフルで、朝の冷え込みなど関係ありません！昼食は本物の竹を使用した「あったか流しそうめん！」お腹一杯になった後は、学童の掃除！前潟の子は遊ぶ時も掃除する時も本気です！年末掃除かな？と思うほど一人一人が気づいた所を全力で綺麗にしてくれました。掃除を終えたあとは公園で「かるた大会」！1枚1枚が手書きで個性溢れるかるたが沢山。公園中に散らばった、かるたの中から1枚を追っているうちに二日間に及ぶお泊り会はあっという間に終りを迎えました。私にとっての「お泊り会」は全ての時間を子ども達と共にし、大家族で過ごしているかの二日間で子ども達との絆も深めることが出来ました。子ども達にとっても、寝食を友達・他学年の子と過ごした時間はかけがえのない思い出となり、自分で出来ることは自分ですること、友達と協力し合うことの大切さに気づけた貴重な時間になったと思います。この教訓を胸に、前潟校スタッフ一同は、1日1日を元氣一杯、楽しんで頑張ります。

YMCA 前潟センタースタッフ  
千田 汐里



## チャンピオンズカップ

今回、初めてチャンピオンズカップに参加をし、ジェットリーダーと一緒に、盛北サッカースクールアンダー10チームを持ちました。

初めて会う子どもたちで、どんな子が来るのかすごくドキドキしていました。最初は、私も子どもたちも緊張していましたが、練習を通して徐々に打ち解けていくことができました。

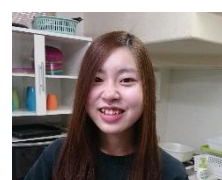
1試合目、一生懸命頑張ったけど負けてしまった悔しさから、泣いてしまった子がいました。その子に対して、声をかけてあげたかったのですが、どんな言葉をかけたら良いか分からず、一緒に落ち込んでしまいました。

次の試合からは、前の試合で出来なかったことを練習し、「ここが良かったよ」「ここもっと頑張ろう」などの声掛けもできるようになり、試合をする毎に、すごく良い雰囲気になっていきました。子どもたちも1試合目は、お互いに対しての声掛けなどができていない部分もありましたが、試合をするたびに自然と声を掛け合う姿が増えていきました。

チャンピオンズカップでは、1勝もすることは出来ませんでしたが、試合を経ていく中で、私自身も一緒に戦っているという気持ちになれ、応援にすごく熱が入りました。

私は学生時代に、体育の授業でサッカーをした程度だったので、アドバイスもあまりすることが出来なかったのですが、来年は少しでもアドバイスができるようになりたいと思います。

YMCA 盛南センタースタッフ  
相馬 みなみ



## ポジティブネット②

### 衝突について

先月、宮古から盛岡への帰路のことである。夜の10時を過ぎていただろうか。同乗していたリーダーが「あっ！！鹿だ！！」と叫んだ。ヘッドライトに2頭の鹿の姿が映し出された。道路を横断しようとしていたのだろう。鹿、くまなどの山の生き物はそれぞれエサを取る場所、水を飲む場所などの経路は定まっている。動物の側にも日常があるのだ。そこに人間の側の理由で道路を作ったものだから、衝突事故がしばしば発生する。

盛岡YMCAの仲間に「つよぼん」というリーダーがいる。大船渡出身で、小学校の教師を目指している大学2年生だ。彼は高校時代、鹿と衝突した経験がある。ある朝、自転車をこいで登校していると、突然何かと衝突した。気がつくと鹿だ。鹿の方も路上に倒れて気絶している。ほどなく鹿は息を吹き返し急いで山の方へ逃げて行ったという。都会のYMCAのリーダーたちにこの話をしたら、きっとびっくりするに違いない。ともあれ「つよぼん」は少なくとも盛岡YMCAのリーダーの中では、“鹿に轢かれた男”としてその存在をゆるぎないものにしていくのだ。

人間の生き方は、直進する者、横断する者、斜めに渡る者、人それぞれだ。だから日常生活の中での衝突は多々ある。そうした中で、100%同じ考えではなくとも、お互い良い方向にむけて前向きな合意を形成していく姿勢は大切だ。とくに、現代のように「つながり」が重視される社会では、ますます必要とされて行くことだろう。衝突は必ずしも悪いことではない。それは他者を理解すると同時に、自分自身を理解するきっかけにもなるからだ。

作家の高史明さんは、「生きることの意味」という本でこう語っている。

したがって、わたしたちがさまざまな出来事に会い、自分自身を発見していく過程は、他の人々を発見していく過程であるともいえます。たとえば、人は自分一人ではどうすることもできない出来事にぶつかったとき、深い絶望に襲われることがあります。しかし人は、その絶望の中で、一人ぼっちの自分を発見するだけでなく、一人ぼっちの自分を考えていく過程において、自分と他の人々とのつながりを発見していくものなのです。人間は、この他の人々の発見をとおして、人に対するやさしさを自分の感情にすることができるのだといえます。

今日も、子どもたちの中に「つよぼん」の姿を見つけた。三日月のような細い目で優しく微笑みながら熱心にこどもの話を傾けている。2年生にしてこの卓越した境地は何なのだろう？ きっと鹿からの贈り物に違いない！！

だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。

新約聖書 マタイによる福音書 6章6節

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

## 日本でメンバーも考えた④

それは、子どもたちの学校の登下校。私が子どものころは、一人で登下校した経験が全くなく、親はどんなに忙しくても、朝は私たちを学校まで送り、学校が終わると必ず迎えに来てくれていた。

私が住んでいた地域は、治安があまり良くないせいか、毎日学校以外の外出は禁止となっていた。また、外で遊ぶ時には、必ず大人の目の届く範囲で遊ぶなど、一人で外出するのはとても危険なことだと考えられており、一人で外出するのはとても危険だといつも心配してくれていた。だからこそ、日本に来て子どもたちの登下校の姿を見たとき、とても不思議なものだと感じた。

さてYMCAでの話に戻り、子どもたちの前ではお兄さんの役割を担い、子どもたちとたくさん遊びながら、自分自身も楽しい雰囲気に入る。お互いに気持ちを分かち合い、楽しい時には一緒に笑い、悲しい時には一緒に泣く。このYMCAの良さは、子どもたちやリーダーたちから学んできた。

日本に来て、日本人とのギャップが良く生まれ、理解するのに苦労もあり、何でも知っているようで、実はまだまだ分からないことがたくさんあるのだと実感する。ただ、興味を持ったものに対して、自分の身で体験したほうが理解はずっと早いと信じているので、ギャップが生まれることは決して悪いことではなく、新しいことを知る良いきっかけなのだと思う。

実際、キャンプなどの短い共同生活の中では、子どもたちの飾り気のない一面が見られると同時に、ふと感じるギャップにも少し理解ができ、気づけば同じ感覚へと変化していく。

そんな中で悩みは尽きないもの。子どもたちの話についていくことが出来るか不安で仕方なく...(中編)

## 表紙の写真から



「仲間とともに心から喜びを共有する体験」は一生の財産になるはず。

(11月3日 盛岡YMCA サッカー大会「チャンピオンズカップ」 於：岩手県立大学グランド)

### 感謝

(二〇一八年十一月二十七日現在)

敬称略

●維持会員  
熊谷大樹、工藤直子、今松桂子、熊谷太、吉崎陽、水田賢次、大関靖二、阿部深雪、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、名古屋恒彦、名古屋理恵、植田一茂、一戸貞文、高橋友恵、熊谷力實、尾形裕一郎、伊藤信彦、田村治之、川坂保宏、澤田優実、北田仁則、北田アユ子、古澤伸、武田理恵子、鶴丹谷三千代、高橋廉翔、人見晃弘、菊地弘生、重石桂司、高瀬裕彦、千田汐里、工藤悦子、家村知佳、滝川佐波子、小笠原邦夫、遠藤昌樹、清水治彦、上中優奈、今野聖子、今野健男、林辰也、森山日菜乃、森山幹大、佐藤隼人、工藤あさひ、工藤誠太、佐藤洋一、中島敬泰、小野寺大介、魚住恵、神田橋慧一、山口貴伸、濱塚有史、濱塚真美、高橋奈菜、押切梓、齋藤之彦、南原良哉、小林茂元、伊藤眞一  
●寄付金  
今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、高橋友恵、熊谷力實、伊藤信彦、中条眞澄、角谷晋次、潮田祐、晴山浩輔、齊藤優太、藤原祐三、尾張幸久、松尾聡子、中条眞澄、日語教会、島田茂、佐藤翔、中村圭一、小山憲彦、角谷晋次、水野暢夫、澤田鉄平、井上浩太郎、井上優子、井上修三、大塚英彦、宮崎幸雄、浅沼慧、浅沼美希、晴山浩輔、尾張幸久